

## 第2学年「ならべてみると」（造形遊び）

### 1 題材名 ならべてみると

### 2 目標

- 「並べる」という表現に関心をもち、体全体で造形活動を楽しむ。  
(造形への関心・意欲・態度)
- 好きな色や形を選んだり、いろいろな並べ方を工夫したりして、自分の思いを広げる。  
(発想や構想の能力、創造的な技能)
- 自分や友達の並べた形を見ることの楽しさを味わう。  
(鑑賞の能力)

### 3 題材設定の理由

○ …略…この時期、児童は、身近にある材料の形や色などの特徴から思いつき、それをもとに、体全体の感覚や技能などを働かせながら次から次へと活動を広げる。行きつ戻りつする過程で形や色のおもしろさや不思議さなどを感じ取り、思いのままに表すことを楽しむ様子が見られる。高学年での活動の広がりや深まりにつながるよう、低学年では、素材に親しみ、そこから発想する遊び性を十分に取り入れていきたいと考える。

本題材では、芋を判にして、「並べる」というリズムの感じられる造形活動を取り上げる。本校では、縦割りで構成された仲良し班や2年生の生活科で、春にさつまいもの苗を植えており、この時期に大量に用意することができる。また、芋判は、児童が持ちやすく、力も加えやすいのでリズム感を感じながら「並べる」活動を楽しむことができる。彩色することも可能である。児童が好きな色や形を選んで、並べ方を繰り返したり、試したりする中で体全体の感覚を働かせ、新たな発見や楽しさが生まれることが可能な素材であると考え、さつまいもを取り上げた。

「並べる」という行為は、例えば、「まっすぐに並べる」、「中心の周りに並べる」、「全体を埋めるように並べる」、「図に沿って並べる」などのような活動が一般に予想できる。造形への関心や意欲と判を押すリズムカルな調子のよさは「もっと長くつなごう」「これとあれを順番に並べていこう」「すきまを空けて並べよう」「方向を変えて並べてみよう」といった活動を生み出すことが期待できる。これは、思いと方法が1つになった技能が働きとも考えられ、このような資質や能力を働かせるのに適する題材であると考え、取り上げることにした。

- …児童の実態省略…
- 指導に当たっては、本校の3つの研究の視点に沿って、次の点を考えていきたい。

視点1～ 題材や本時での導入時に、児童の実態や学習内容に応じてつくりだす喜びを味わえるような手立てをする。

自分たちの育てたさつまいもは、親しみをもって意欲的に活動することができるであろうと考え、取り上げる。さらに題材名や教師の提案、普段は使わないような大きな紙、鮮やかな3色などを準備した環境との出会いをすることで、活動に意欲を持って取り組めるようにしたい。

このような手立てにより、児童が材料や用具と対話しながら自分の満足のいく表現を試したり発想したりできるような学習の場になることを期待している。

視点2～授業の流れの中で、素材とかかわり、自分の思いを膨らませることができると手立てを工夫する。

支援にあたっては、児童の活動からその思いを的確に理解すること、児童の活動に造形的な意味を価値付けることを大切に考えたい。「いいこと思いついた。」(発想)、「うまくいった。」(技能)「きれいに見える」(鑑賞)などのことば、児童の目線や動作を手がかりに理解をする。主体的に活動をしている児童には、見守る姿勢を基本とし、よさを認め励ます。友達の並べる様子を見て、自分でも試したり、そこから新たなアイデアを思いついたりし、思いを膨らませる姿を見ることもできる。友達の様子をまねたり参考にしたりする姿、友達の作品の中に入っていき姿は響き合い高め合う児童の姿ととらえられるであろう。活動になかなか取り組めない児童には、その原因を探り、必要によっては具体的な提案したり、友達の活動を紹介したりする。

視点3～ 表現の楽しさを味わい、お互いを認め合うための手立てをする。

(鑑賞)

本校の研究主題である「共に伸びゆく」の響き合いの姿については、図工科では、表現活動における友達との交流や鑑賞の場面において多く見出すことができる。本題材では、その姿を鑑賞の場面で見とるよう留意し、お互いのよさを認め、認め合うことができるようにしていきたい。「自分とはちがった並べ方を見つけよう」と投げかけ、並べ方について話し合えるようにする。並べた形、大きさと色、色と色、大きさと大きさなど組み合わせによって、様々な美しさやおもしろさの感じになっていることに関心を持って見るができるように場の設定や声かけをする。さらにそれをどのように感じたかが言えれば、それを紹介するようにする。

#### 4 題材の計画と評価規準 (全2時間)

##### (1) 指導計画

1/2	いもスタンプでどんなならべ方ができるかな
2/2 (本時)	いもスタンプでならべ方を楽しもう こんなならべ方ができたよ

## (2) 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	「並べる」という表現に関心をもち、体全体で造形活動を楽しんでいる。
発想や構想の能力	好きな色や形を選び、自分の思いを広げている。
創造的な技能	好きな色や形を選び、いろいろな並べ方を工夫している。
鑑賞の能力	自分や友達の並べた形を見ることの楽しさを味わっている。

## 5 本時の学習

### (1) ねらい

- 色や大きさのリズムの楽しい並べ方を表現することができる。(創造的な技能)
- 自分や友達の並べた形をみることを楽しむ。(鑑賞の能力)

### (2) [本時の展開](#)

### (3) 本時の評価規準と支援

#### 創造的な技能

十分満足できると判断される児童の具体例	並べ方のおもしろさに気づき、自分の思いにあった並べ方を表現することができている。
おおむね満足できると判断される児童の具体例	表したい感じになるまで試しながら取り組んでいる。
努力を要すると判断される児童への支援	教師がそばで一緒に活動したり、友達と一緒に活動したり参考にしたりするよう促す。

#### 鑑賞の能力

十分満足できると判断される児童の具体例	並べ方のおもしろさに気づき、自分の言葉で伝えることができる。
おおむね満足できると判断される児童の具体例	自分の好きな並べ方を見つけることができる。
努力を要すると判断される児童への支援	友達の発言を聞く時間を設け、並べ方の楽しさを味わえるようにする。

## 6 鑑賞の実際

### (ア) 鑑賞時におけるお互いを認め合うための手立て

第2時の導入で鑑賞を取り入れ、「他の班も見て回ってまねしてみたいなと思う並べ方を一つ見付けよう。」と投げかけた。その後、第1時の続きに入った。6班のi児はb児の並べ方を参考にして、自分の工夫を加えた様子が認められた。

#### 【資料5】

5班 b児の並べ方 → 途中の観賞を生かした6班の児童の並べ方



当初、ギャラリーから鑑賞することを予定していた。昼休み、ギャラリーから見ると、想像していたより小さく見え、赤色は目立つが黄色は見えづらく、小さい芋版の並べ方は見えにくいと感じた。そこで、最後の鑑賞では、作品の近くを自由に歩いて回り、お気に入りの場所を見付けて座るということにした。ここでも、児童の姿や状況に応じて臨機応変に柔軟な対応をすることは、教師に求められていることだと改めて感じた。最後の鑑賞では、鑑賞シートを用意し、「自分とは違うやり方を見付けよう。」と投げかけた。それがおもしろさ（よさ）だということに結び付けるためである。おもしろさのなかにはいろいろな要素があるので、具体的にどんなおもしろさかという着眼点を提示したことで鑑賞の手立てとした。

#### 【資料5】最終時の鑑賞



鑑賞シートをもって見て回る



みんなで見合う姿

